

<http://ameblo.jp/153524150/entry-10705141476.html>

『オランダのアート&デザイン新言語』は驚きとユーモアあふれています。

テーマ: [展覧会](#)



『オランダのアート&デザイン新言語』

は驚きとユーモアあふれています。

オランダと言えば直ぐに1-0で負けた“Wカップ”を思いでしてしまうけど、

ゴッホの生まれた国でもあり、

フェルメールやレンブラント、現代ではエッシャー・モンドリアンもそうです。

ボクには、今までオランダは家具等のデザインは素晴らしいモノがある位は知っていたが、

いまやデザインの世界のトレンドリーダーの役割を担う存在となっていたんです。

そのオランダのデザインにフォーカスした企画展『オランダのアート&デザイン新言語』が、
10月29日から東京都現代美術館で開催されています。



1990年代からその前衛的なアプローチにより注目を集めてきたオランダデザインは、
快適さや機能性を追求する20世紀デザインとは対極にあり、新しい価値観を提示していま
す。

その暖かみを感じる作品達は、人の存在を肯定・尊重しながらも
「環境と消費」「都市と社会システム」「歴史と文化の継承」などの問題意識がベースにあ
り、
人とモノとの関係や人と人とのコミュニケーション、未来の選択を問いかけてきます。

(ガラにもなく難しいことを書きちゃいましたが、単純に言うと温かみを感じて、おもしろいで
す。)



入場口で小さなブロックをくれます。「何をさせるんだろう?」と思いながら入りました。

会場にはいると、ライトアップされた空間にジュエリーを使った作品があり、
女性の欲望を象徴しているのかな?と思わせ輝いています。



テッド・ノーテン「リップペンズ・バッグ」(2005年)



古い家具を使った新しくてどこか不思議な家具。



スタジオ・マーティン・バース「シェル」(2009年)



1分ごとに時を「書き換える」時計!これが、最高に笑えます。
時計のガラス越しにぼや～っと人が見えていて一生懸命に書いては消しをして居るん
です。

ボクは、実際に人が入ってやっているのかな?と思い、後ろに回って見ました。

(相変わらずのアホですネ～。)

マーティン・バース(プロダクト・デザイン)「grandfather-clock」

マーティン・バースのReal Timeシリーズ「Sweepers clock」
延々と、ほうきでゴミを移動しています。

マーティン・バースは、歴代最年少の31歳でありながら
『デザイン・マイアミ2009』のデザイナー・オブ・ザ・イヤーを受賞した。



性格診断ゲームのようなドアを通らないと次の展示物にはたどり着けないのです。
このアーティストのスペースに行くためには、ドアを選ばなければならずドアはこんなにあります。



マルティン・エンゲルブレクト「ご近所ショップ」



テッド・ノーテン「Tedwalk」

入り口で貰ったブロックの回答です。ブロックを繋げて壁を作るんですが…



隣人愛をテーマにした不思議なグッズが販売されていたり。
ほとんどの作品は手に取って触れたり、参加できたりする体験型で小さな子も楽しめそうです。

展示品のアイデアの斬新さにびっくりしたり、
くすっと笑えるものも多く、なんだかほっとできる空間ありました。
快適さや機能性の対極の新しい価値観が表現されていて、
ボク的生活感覚にダイレクトに化学変化を起こさせて

ボクのアートに対する概念を取り払ってくれました。